



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	The Thought of Kingo Miyabe, Kanzo Uchimura, and Inazo Nitobe : Independence, Tolerance, Nature, Health, and Views of Women in Japanese Christianity [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	Komasin, Stephanie Midori
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第15660号
Issue Date	2023-09-25
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/90766">https://hdl.handle.net/2115/90766</a>
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a>
Type	doctoral thesis
File Information	Stephanie_Komasin_review.pdf, 審査の要旨



# 学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学） 氏名：コマシン ステファニー ミドリ

	主査	特任教授	佐々木	啓
審査委員	副査	教授	宮嶋	俊一
	副査	教授	水溜	真由美

## 学位論文題名

The Thought of Kingo Miyabe, Kanzo Uchimura, and Inazo Nitobe: Independence, Tolerance, Nature, Health, and Views of Women in Japanese Christianity

(宮部金吾、内村鑑三、新渡戸稲造の思想：

日本のキリスト教における独立、寛容、自然、健康、女性観)

### ・当該研究領域における本論文の成果

本論文の成果は、全体としては、日本におけるキリスト教の歴史のみならず、わが国のさまざまな領域に重要な足跡を残した札幌農学校1期生2期生のキリスト教徒集団、いわゆる「札幌バンド」に属する人物たちの研究に、新たな一面を切り拓いたことである。そのような成果として、具体的には、以下の四点にまとめることができる。

まず第一点目の成果として、北海道大学のみならず米国の大学や文書館などのアーカイブを渉猟し、今日まで紹介されることのなかった新たな資料（書簡や国勢調査、私的記録、新聞記事など）を発掘、紹介したことがあげられる。その際、とりわけ、すでに多くの研究がある W. S. Clark (1826-1886) のみならず、D. P. Penhallow (1854-1910) や W. Wheeler (1851-1932)、さらに W. P. Brooks (1851-1938) など、札幌農学校初期の教授たちのキリスト教的背景を詳細に調査することによって、Clark が去ったのちの米国人教官らのキリスト教的思想が「札幌バンド」の構成メンバーたち、とりわけ宮部金吾 (1860-1951)、内村鑑三 (1861-1930)、新渡戸稲造 (1862-1933) らに多大な影響を与えた可能性を指摘したことに大きな意味がある。

本研究の第二点目の成果としては、上述のような資料の探索により、「札幌バンド」のメンバーたる日本人キリスト教徒たちの在り方が、たとえばあまり深く探究されることなく“puritan”とされる Clark の影響によるなどと捉えられるのとは異なり、欧米のキリスト教史における“Dissenter”(イギリス非国教徒) と呼ばれるキリスト教徒のあり方に近いことを、一定の説得力を持って提示したことがあげられる。

さらに、そのような「札幌バンド」の位置づけのなかで、内村鑑三の「独立における寛容さ」や、新渡戸と宮部に見られる当時としては斬新な「女性観」、またさらに宮部に見られる独特の「健康観」などを、上述の“Dissenter”と呼ばれる人々のキリスト教的生き方との関連において論じ、「非国教徒の遺産」(Dissenter heritage) という分析枠組みを提示したことが本研究の第三の成果として重要である。

最後に、本論文の第四の成果として、「札幌バンド」のメンバーに見られる独自のキリスト教思想が、上述のような欧米における“Dissenter”の信仰的・思想的傾向に連なるのみならず、当時の北海道の地理的・自然的特性や札幌農学校における独特な教育スタイルなどの影響によって、独自性のあるものとして形成された可能性を指摘した点をあげることができる。

以上のような本論文の学術的成果については、本論文の基礎となっているいくつかの論考が地方の学会誌のみならず、Stephen W. Angell & Pink Dandelion (eds.), *The Cambridge Companion to Quakerism* (Cambridge: Cambridge University Press, 2018) といった文献にも収録されていることから、国際的にも十分に認められていることが窺われる。

・学位授与に関する委員会の所見

本審査委員会では、上述のような本論文の成果を十分に認めつつも、いくつかの問題点を指摘せざるを得なかった。

豊富な新しい知見が記述されているのはいいが、そういった記述が時に長大で、全体の流れにおけるつながりが見えにくくなっている箇所があるといった論述形式上の問題のほか、「札幌バンド」の内村や新渡戸、宮部などに見られる独特な「キリスト教思想」とされるものと、論文執筆者が“Dissenter”的な特質と主張するものとの結びつきをいっそう明確にする必要性なども指摘された。また、すでに長く多くの先行研究の歴史がある内村鑑三などに関しては、とりわけ日本語による諸業績との対論が十分とは言えない面があり、内村の複雑と言っている行動やキリスト教信仰(思想)をそれらの時間的展開のなかで検討する作業なども必要であると思われた。また、新渡戸や宮部の「女性観」や「健康観」などを論じる場合には、当時の国内外におけるそれらをめぐる社会的あるいは学術的観念や議論にさらに踏み込んだ検討が必要であろうことなども、口頭試問において指摘された。

しかしながら、そのような問題点は、論文執筆者自身も十分に意識していることは口頭試問を通して確認できており、本論文の達成した成果を損なうものではなく、むしろ今後、本論文の延長線上でさらに展開されるであろう研究において補われていくことがらであると考えられる。

以上、本審査委員会は、全員一致で、本論文の学術的成果を十分に認め、コマシン・ステファニー・ミドリ氏に博士(文学)の学位を授与することが妥当であると判断した。